



じゆみょういん
寿明院街道の松並木 (現在の寿地区)

昔

昭和10年代



今



松並木が続いていた現在の県道68号線(旧国道220号線)
※左の写真の位置とは異なります。

現在の寿地区は、かつては寿明院と呼ばれていました。左の写真は、
寿を東西に走っていた寿明院街道の松並木。今とは違う、街道とし
ての風情に驚かされます。寛政年間に植えられたこの松並木は、詩人・
野口雨情が昭和15年に鹿屋を訪れた際に作詞した「鹿屋小唄」にも登
場するなど、内外に知られた存在でした。



昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

カノヤタイムトラベル

肝付氏と禰寝氏の戦い

天文年間(1532~1555)

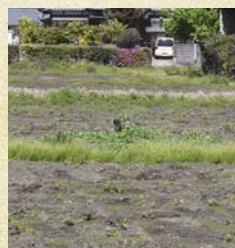
の頃、三州(薩摩・大隅・日向)統一を目指す島津氏にとつて、都城の北郷氏、飢肥の島津氏、志布志の新納氏の三氏が、島津氏に敵対する伊東氏を抑制する第一線としての役割を果たしていました。

この対立均衡が崩れたのは、天文4年(1535年)8月。飢肥の島津忠朝が北郷氏と連携して兵を發し新納氏の支城を攻め、これに伊東氏が新納氏を助ける形で参入したのです。一方島津家本家では勝久、実久の継嗣争いが起こり、事態收拾に乗り出した日新齋の子・貴久まで加わり、三州の地は大混乱に陥りました。

このとき、日新齋の娘・阿南を



田崎町から下堀町にかけて広がる台地・鹿屋原で両氏の戦いが起こった。



亡くなった兵士を供養したものとされる田崎町の禰寝塚。今は農地となり面影は残っていない。

妻としていた高山の肝付兼統は貴久側につき、実久側についた根占の禰寝氏と争うことになりました。

そして天文11年間3月30日、肝付兼統は北郷氏と共に、鹿屋原で禰寝清年の軍と戦いました。初めは禰寝軍が優勢で川西の船隈城にこもりましたが、肝付氏・鹿屋氏軍に急襲され大敗。五十余人の死者を残して禰寝軍は退きました。

田崎では「禰寝どん」といって、6月24日に軍馬の鳴き声を聞くと死ぬという言い伝えがあり、農民はこの日に仕事を休む習わしがあったといわれています。

肝付氏はその後島津家に敗れ、天正5年(1574年)に三州を統一した島津貴久は、南九州での地位を盤石のものとししました。